

様式3

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策

| | |
|-----|-----|
| 教科名 | 国語科 |
|-----|-----|

| | 指導方法の課題分析 | 具体的な授業改善策 | 補充的・発展的な学習指導計画 |
|------|--|---|---|
| 第1学年 | <ul style="list-style-type: none"> 正しく文章を読み取れるように、音読の力を高めたい。 文章の中で、大事な言葉や文を見付けながら読むことができるように、指導を工夫したい。 他の教科・領域でも読む力を身に付けさせる指導が必要である。 新出文字では、促音や濁音などの定着を促すために練習方法を工夫する必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 音読では、リズムに合わせる、人数を変える、役割読みをさせるなど様々な読み方を多く取り入れる。 発問を工夫しながら、大事な言葉や文を押えられるようにする。 動作化や役割演技など、様々な読みをすることで、読みを深められるようにする。 促音や濁音などの定着を図るために、使う必要のある課題を提示したり、文を書く際に意識する声かけをしたりする。 文字指導においては、指書き⇒なぞり書き⇒写し書きの習慣を徹底し、着実な習得を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> 本の読み聞かせなど読書に親しめる時間を多くもつようにする。 文字の正しい定着を図るため、字形や書き順も含め、反復練習をさせる。 定期的に文字の理解や定着の度合いを評価し、個々の到達度を確認しながら指導していく。 |
| 第2学年 | <ul style="list-style-type: none"> 児童が意欲をもって音読できるよう工夫をする必要がある。 文章を読むときに、言葉の意味、順序や大事な言葉や文を捉えながら読む力を高めたい。 自分の考えを順序立てて話したり、書いたりする力を高めたい。 新出漢字の定着には個人差が見られる。 | <ul style="list-style-type: none"> 音読の練習方法に変化をつけたり、ねらいをもって音読したりできるようにする。 言葉の意味を理解する手だてとして、動作化や、児童の経験と結び付けさせる。 板書にも話す順序や内容、聞くポイントなどを書いて提示し、視覚的に分かりやすくする。ペアやグループ、全体で感想や考えを交流する機会を設ける。 書く学習では、モデル文を見ながら、順序や簡単な構成を意識して書けるようにする。 漢字練習の仕方を身に付けるとともに、文を書く際に意識して使うように指導する。 | <ul style="list-style-type: none"> 日常的に読書ができるような環境を整え、本に親しみながら読解力を高める。 スピーチでは、「はじめ、中、終わり」を意識して話すよう指導する。 日常的に文を書く活動を積み上げ、表現力の向上を目指す。 漢字を確実に定着させるため、反復練習をさせる。 |
| 第3学年 | <ul style="list-style-type: none"> 文章を読むときに、言葉の意味を正確に捉え、叙述に即して読み取り、分かったことを基に感想や考えがもてるようにしたい。 話す力や書く力には個人差があり、全体的として力を高めていくとともに、個別指導が必要である。 漢字や文字を書く能力にも差が出てきている。正確に丁寧に書くための個別指導が必要である。 既習漢字を使わずに、平仮名で書く児童が多い。 | <ul style="list-style-type: none"> 文章全体の構成や大体的内容を捉えるなど、ねらいを意識して音読できるよう指導する。一斉だけでなく個別指導の充実を図る。 文章を読む際には、段落を意識し、サイドラインを引くなど、叙述に即して正確に読み取り、そこから自分の感想や考えをもてるように指導する。 言葉の意味を正確に理解するために、国語辞典の使い方を身に付け、分からない言葉があれば、すすんで調べる習慣を身に付けさせる。 書く・話す学習では、構成を意識しながら、書きたい・話したい内容の中心を明確にして書く・話す活動に継続して取り組む。 漢字の学習の流れを身に付けさせ、児童が主体的に覚えるようにする。 日常的に漢字を書かせるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> 「読み」の力を高めるために、授業の中で音読を多く取り入れていく。 全文を横断的に、読み取っていきけるように発問の仕方を工夫する。 読書を通して、様々なジャンルの本に出会えるようにする。 「書く活動」では、モデル文や文章構成を提示したり、自分の考えや気持ちを書く機会を設定したりしながら、作文に対する抵抗感をなくすよう指導を工夫する。 「話す活動」では、スピーチなどに継続的に取り組み、構成を意識して話したり、自分の考えや気持ちを表現したりできるように指導を工夫する。 |
| 第4学年 | <ul style="list-style-type: none"> 読書を好む児童が多く、物語の読解力は高い。しかし説明文は、内容の理解度に個人差がある。 文章を読むときに、言葉の意味を正確に捉え、叙述に沿って読み取り、伝えたいことをまとめられるように指導法を工夫していきたい。 漢字や音読などは、全体で繰り返し学習に取り組みながら、並行して個別指導をしていく必要がある。 話す力、書く力をはじめとした表現力を高めるために、機会を多く設け、学習内容を精選する必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 説明文を読む際には、段落を意識し、サイドラインを引くなど、叙述に即して正確に読み取っていくよう指導する。また、文章全体の大まかな構成も捉えるようにする。 物語文を読む際には、心情の変化を捉え、その要因となる出来事に気付いたり、登場人物の心情を想像したりする活動を丁寧に進行。 分からない言葉があれば、国語辞典を活用する習慣を付けるとともに、短作文などを用いて自分で活用できるようにする。 文章を書く学習では、目的意識や相手意識をもたせる工夫をし、書く過程を理解する指導を行い、書く活動を充実させる。 | <ul style="list-style-type: none"> スピーチなどに継続的に取り組み、自分の考えや気持ちを表現する力を高める。さらに、人のスピーチに対して自分が感じたことや考えたことをその場で返すようにする。 毎週、短時間で書く活動を行い、書くことを習慣化させる。その際、何をどのように書くか指導者も明確にもつ。 説明的文章を読むときに、資料をよく読み気付いたことを出し合う、自分でも疑問に思ったことを調べるなどの活動を促す。 |

| | | | |
|-------------|---|---|---|
| <p>第5学年</p> | <ul style="list-style-type: none"> 文章を書くときに、国語科のみならず、日常生活の中でも漢字を使わずに平仮名で表現しがちである。 何を伝えようとしているのかを読み取り、短い文章や言葉でまとめることは個人差が大きい。また、主題や意図を意識して読み取ること慣れていく必要がある。 基本的な言葉の使い方や語彙を再確認し、定着させる指導の工夫が必要である。 作文の構成を意識し、相手意識をもって文字を丁寧に書くことを意識させる必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 文章や言葉に着目して読む力を向上させる。その際、段落を意識し、大まかな文章構成や型が理解できるようにする。また、サイドラインを引くなどの基本的な手法を身に付けるようにする。 文章の内容を短くまとめる活動を大切に。内容を丁寧に読み取らせ、中心的な情報と付加的な情報に分けさせたり、取り出させたりするなどの指導の充実を図る。 辞典を活用しながら、言葉の使い方が分かり、語彙が豊かになるようにする。 文章を書く過程を理解する指導を行い、事実と感想や意見を区別して文章化できるよう、文章表現過程に沿った活動を吟味して課題提示を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> 本の紹介などを通してより良い読書環境を整えていく。 学習した漢字や言葉を使う場面では、辞書の活用を意識させる。 文章を書く学習では、実の場を意識して、目的意識、相手意識をもたせるような学習指導計画を立てる。また、モデル文の提示や文章構成指導を重点とし、書く活動を充実させる。 朝の作文の内容を工夫する。資料を用いたり立場を明らかにしたり書く内容の多様化を図る。 |
| <p>第6学年</p> | <ul style="list-style-type: none"> 読書や音読に意欲的に取り組み、言葉や漢字を正しく使おうとする国語に対する意欲はある。 国語に対して苦手意識をもつ児童がいる。特に文章を書くことに抵抗を感じているので、できたという実感をもたせる必要がある。 主題や意図を意識して読み深め、読み取ったことをもとに自分の考えを表現することに対しては個人差が大きい。 複数の資料を読み、それを基にして自分の考えが伝わるように書くことに課題がある。 相手意識をもって文字を丁寧に書くことを意識させる必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 言語能力については、さらに、自分の身の回りから探したり事例を考えさせたりして定着を図る。 文章の構成における基本的な型を身に付けさせるとともに、キーワードやキーセンテンスに着目して読む力を向上させる。 文章を書く過程を理解する指導を行い、書く活動を充実させる。さらに、朝の作文の時間を使い、複数の資料を用いて読み取ったり考えたりしたことを表す活動を意識的に行う。 表現したことを互いに交流して振り返る活動を大切にし、書いたもの話したことは相手に伝えるものであるという実感をもたせる。 | <ul style="list-style-type: none"> 実の場を意識して指導計画を立て、目的意識、相手意識を高める。 書くことの学習では、題材を工夫し、見通しをもたせ、自分でも学習計画を意識して立てさせる。さらに、自分の考えの根拠となる資料を探したり、分かりやすくするための工夫を考えたりする指導を行う。 表現するときにはモデルを示して活用し、具体的に考えられるようにする。 |